

厚生労働科学研究費補助金（エイズ対策政策研究事業）

（分担）研究報告書

ブロック拠点病院のない自治体における中核拠点病院の機能評価と体制整備のための研究
～オール四国の体制の整備～

課題番号：21HB1007

【分担研究2】四国の高齢者施設における HIV 感染症等に関する研修会の開催および実態調査

研究分担者：高田 清式（愛媛大学医学部附属病院 教授）

研究要旨：四国のようにブロック拠点病院が近辺になく、県内の個々のエイズ拠点病院が十分に機能していない、いわゆる地方の比較的医療過疎である地区に、本研究によって HIV 診療の充実や均てん化が促されていくことが期待されている。令和 5 年度は、愛媛県では高齢者施設における HIV 感染症等に関する研修会の開催を県（健康増進課）の協力のもと県内の高齢者施設から現場の福祉・介護担当者に募集のもと参加してもらい、HIV 感染症等に関する研修会を開催する予定であったが、新型コロナウイルス感染後のこともあり中止した。しかしながら、今年度は令和 5 年 12 月 14 日に、中学・高校・大学の保健指導関係者、新聞・放送関係者に対して、「愛媛における HIV 感染の現況～AIDS 患者の治療の進歩、高齢化に向けて～」の講演を行った。なお開催した内容は印刷し（講演内容を補足する目的で）配布し最先端の HIV 感染症の話題・知識の啓蒙を行った。地方での HIV 診療のモデルとして体制整備・充実に努めつつあるが、都会からの帰郷なども要因である高齢の HIV 感染者が年々増加傾向にあるため、介護施設での啓蒙は継続して必要と考える。

研究分担者

末盛浩一郎・愛媛大学医学部・准教授

武内世生・高知大学医学部・准教授

今滝修・香川大学医学部・講師

尾崎修治・徳島県立中央病院・医療局長

井門敬子・南松山病院・薬剤部長

若松綾・愛媛大学医学部附属病院・看護師

指定され、累計 220 名以上の患者を治療している。四国地区は近年 HIV・エイズ患者の増加が著しく、当県もエイズ拠点病院に指定されている病院が 15 施設もあるものの殆どが診療未経験であり、大半の患者が当院に受診している。かつ四国地区は、高齢化率が各県 31.5～34.8%であり、都市に比べ高齢者の HIV・エイズ患者が多く、HIV 感染および合併症が進行し日常生活に差し障りが著しく自宅以外での長期療養が必要な例も少なくない。当院は急性期病院

A. 研究目的

ブロック拠点病院が近辺にない愛媛県において当院は、エイズ地域中核拠点病院に

の立場であり、自宅で生活困難な長期療養患者の対応については、他の施設への紹介・受け入れを個々の事例において行っているが HIV に対する不安や感染リスクが問題になり、受け入れに難渋しているのが実情である。さらに治療以外にも家族対応および就業面など社会的な対応も迫られることも多い。これらの実情のもと、数多くの医療スタッフによるチーム医療が必要な領域であることを踏まえて、当院では数年前より HIV 診療チームを立ち上げ活動しつつある。こうして愛媛県各地域の各病院・施設と連携を行うように努めているものの、対応すべき HIV 感染症者は多くかつ経済・人材面も満たされておらず、連携しうる病院・施設への啓蒙や人材の育成も患者数の増加からは極めて不十分な状況である。このような背景のもと、中核拠点病院の立場から、県内の病院・施設との連携整備、さらには県・市の保健行政との連携も踏まえ、HIV 感染者・エイズ患者に対する診療体制を整備し充実を図りたいと考えている。ブロック拠点病院の存在しない四国地区全体の HIV/エイズ診療体制の充実にも努めることを実行していきたい。

さらにこれらの研究成果は、エイズ学会をはじめ多くの機会に公表・報告していくことで、他府県などにモデル地区としての立場で発信し、四国のみならず全国の地域の HIV 診療の充実にも努めたい。

B. 研究方法

四国の高齢者施設における HIV 感染症等に関する研修会の開催および実態調査

各県の行政の協力のもと高齢者施設から現場の福祉・介護担当者に参加してもらい、HIV 感染症等に関する研修会を開催す

る。特に高齢の HIV 感染者が多い実情や今後介護の面で問題になると考えられる HIV 関連認知機能障害 (HAND)、最新の知見 (治療が良好なら感染しない U=U) についても啓蒙する。知識啓蒙と参加者各自に HIV 感染者を支援することの自覚を促すことを目的に、研修会の終了時に HIV 感染者の福祉・介護についてアンケートを行う。

(倫理面への配慮)

患者および関係者に対する人権の保護に配慮して行い、調査に協力できない場合も不利益にならないようにする。

C. 研究結果

昨年度は介護保険サービス従事者を対象に松山保健所の協力にてエイズ対策セミナー「介護保険サービスに役立つ感染症の話題」を令和 5 年 2 月 10 日に開催したが、今年度は令和 5 年 12 月 14 日に、中学・高校・大学の保健指導関係者、新聞・放送関係者に対して、「愛媛における HIV 感染の現況～AIDS 患者の治療の進歩、高齢化に向けて～」の講演を行った。なお開催した内容は印刷し (講演内容を補足する目的で) 配布し最先端の HIV 感染症の話題・知識の啓蒙を行った。

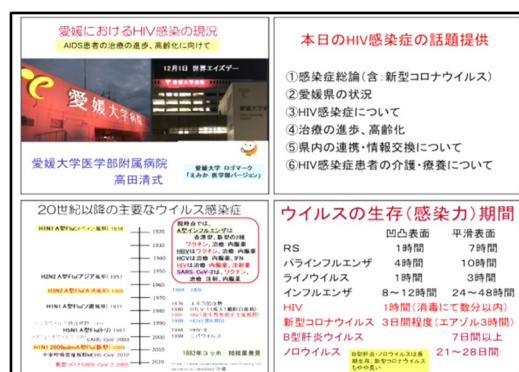




図 冊子内容（一部抜粋）介護に必要な HIV の実践的な知識を自学用に多く含む

また高知県で令和 6 年 1 月 20 日に「高知県 HIV 感染症研修会」を開催し（訪問看護師 9 看護師 2 作業療法士 2 名）、「HIV 陽性者を受け入れして」のテーマで訪問看護ステーションと障がい者施設からの報告、「HIV 陽性者への在宅支援について」のテーマでパネルディスカッションを行った。

D. 考察

全国的に少子高齢化社会になりつつあり、高齢化が一步進んでいる愛媛県および四国は、今後の HIV 感染者の高齢化と介護・福祉対策を考える上で代表的なモデル地区と考える。

四国地区にはブロック拠点病院はないものの、当院では令和 5 年度末現在累計 220 名以上の HIV 診療経験があり（県内の大半の HIV 診療を担当）、愛媛県での中核拠点病院の立場にある。また、四国の他県からも患者は通院している現況である。HIV 感染者・エイズ患者が全国的に増加する傾向にあるが、四国も例外ではなく、愛媛県においても新たに毎年 10 名以上の新規感染者・患者が報告されており、また年配の帰郷者も少なからずあり、そのため高齢の HIV 感染者が多く見られ HIV 診療の充実には早急に迫りつつある課題であると考えら

れる。さらに愛媛県をはじめとする地方においては、高齢の HIV/エイズ患者が比較的多く、愛媛県において令和 4 年末現在 50 歳以上の 8 割は発見時にエイズ患者であるという現実があり、各拠点病院と長期療養患者を受け入れ得る介護・福祉施設間の連携は喫緊の課題である。

令和 5 年度は、愛媛県の高齢者施設からの募集による研修会は新型コロナウイルス感染蔓延にて開催できなかったが、令和 5 年 12 月 14 日に、中学・高校・大学の保健指導関係者、新聞・放送関係者に対して、「愛媛における HIV 感染の現況～AIDS 患者の治療の進歩、高齢化に向けて～」の講演を行った。

HIV 感染者の高齢化にあたり、HIV 診療および福祉連携のあり方についてさらに充実に努め、高齢化率の高い愛媛県のような四国地方において、その介護福祉連携のモデル地域として今後も研究・報告を当地区から全国に発信していきたいと考える。

E. 結論

ブロック拠点病院がない四国地域において、HIV 診療体制整備のために今年度は令和 5 年 12 月 14 日に、中学・高校・大学の保健指導関係者、新聞・放送関係者に対して、「愛媛における HIV 感染の現況～AIDS 患者の治療の進歩、高齢化に向けて～」の講演を行った。高齢化社会を迎え介護・療養が必要な HIV 感染・エイズの増加に対応するために、HIV 診療体制の整備は、特に地方においては拠点病院間のみならず介護・福祉施設との福祉連携の充実に不可欠であり研究を継続し地方のモデルという立場からもさらに向上に努めたい。

F. 健康危険情報

該当なし

G. 研究発表

1. 論文発表

- 1) Otani,M., Shiino,T., Hachiya,A., Gatanaga,H., Watanabe,D., Takada,K.,et.al. Association of demographics, HCV co-infection, HIV-1 subtypes and genetic clustering with late HIV diagnosis: a retrospective analysis from the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. J. International AIDS Society2023,26 :e26086.
- 2) Taniguchi Y, Suemori K, Tanaka K, Okamoto A, Murakami A, Miyamoto H, Takasuka Y, Yamashita M, Takenaka K : Long-term transition of antibody titers in healthcare workers following the first to fourth doses of mRNA COVID-19 vaccine: Comparison of two automated SARS-CoV-2 immunoassays. J Infect Chemother.29(5):534-538,2023.
- 3) 中村美保、岡崎雅史、西田拓洋、高橋武史、朝霧 正、宮崎詩織、武内あかり、高田清式、武内世生。HIV 陽性者のワクチン接種状況調査。日本エイズ学会誌 25 : 99-105、2023.
- 4) 中村美保、前田英武、岡崎雅史、西田拓洋、朝霧 正、四國友里、北村優衣、高田清式、武内世生。高知県内医療機関における HIV 陽性者受け入れ時の問題点と解決への取り組み。日本エイズ学会誌 25 : 106-111、2023.

2. 学会発表

1) 菊地 正、西澤雅子、小島潮子、大谷眞智子、Lucky Runtwene、椎野禎一郎、高田清式、吉村和久、杉浦 互他。2022 年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV 1 の動向。日本エイズ学会、2023 年、京都。

2) 木原久文、中尾 綾、臼井麻子、西田拓洋、徳井恵美、海面 敬、赤松祐美、谷 英俊、池谷千恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤 譲、今滝 修、尾崎修治、和田秀穂、千酌浩樹、川邊憲太郎、山之内純、高田清式。中国四国地方における HIV 関連神経認知障害に関する研究・続報。日本エイズ学会、2023 年、京都。

3) 中尾 綾、レイシー清美、若松 綾、末盛浩一郎、河邊憲太郎、山之内純、竹中克斗、高田清式。HIV 感染者の気分状態と睡眠に関する検討 第 2 報。日本エイズ学会、2023 年、京都。

4) 西田拓洋、中尾 綾、臼井麻子、海面敬、徳井恵美、赤松祐美、谷 英俊、池谷知恵、中村美保、川田通子、武内世生、佐藤 穰、尾崎修治、今滝 修、和田秀穂、千酌浩樹、河邊憲太郎、山之内純、高田清式。HIV 診療における CoCoBattery の活用。日本エイズ学会、2023 年、京都。

5) 加藤潤一、越智俊元、末盛浩一郎、乗松真大、小西達矢、名部彰悟、丸田雅樹、山之内純、高田清式、竹中克斗。ART 導入後に化学療法を併用し寛解維持している HIV 関連リンパ増殖性疾患。日本エイズ学会、2023 年、京都。

H. 知的財産権の登録状況（予定を含む）

該当なし